DISCO

株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

2014 年度 調査結果（2013 年 9 月発行）

大学の就職・キャリア支援活動に関する調査

2014 年度の新卒採用戦線は、「12 月広報開始」2 年目ということ、企業の採用意欲が回復していること等により、大きな混乱なく比較的順調に進行しているようだ。しかし、2016 年度から採用活動のスケジュールが大幅に繰り下げられることが決まっており、大学の就職・キャリア支援の重要性はますます高まっている。そこでディスコでは、全国の大学の就職課・キャリアセンターを対象に、2014 年卒者の就職活動状況から、2016 年卒者への対応まで、多岐にわたる項目を調査し、分析した。

【主な調査内容】

１．2014 年卒者の就職活動状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
［１］内定状況　［２］内定先
［３］後期の学内合同企業説明会の実施予定時期

２．2014 年卒者の就職における企業との関係構築について・・・・・・・・・・・・Ｐ４
［１］企業からの求人状況　［２］企業の来訪
［３］学内合同企業説明会への参加意向

３．2015 年卒者の就職に対する意識について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
［１］学生のインターンシップ参加希望状況　［２］就職ガイダンスへの出席状況
［３］学生へのガイダンス告知方法

４．2015 年卒者の就職における企業との関係構築について・・・・・・・・・・・・Ｐ７
［１］企業からのインターンシップ求人状況　［２］企業の来訪

５．2016 年卒採用のスケジュール後ろ倒しについて・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８
［１］学生向け支援の大筋の方針決定時期　［２］自校の学生の就職活動への影響
［３］就職ガイダンスの実施時期　［４］学内合同企業説明会の実施時期
［５］時期の繰り下げによる変化予想　［６］時期の繰り下げにあたり取り組むこと

６．学生へのキャリア・就職指導全般について・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ12
［１］自校における現在の課題　［２］新卒紹介サービスについて

《調査概要》

調 査 対 象 ： 全国の大学の就職・キャリア支援担当部署
調 査 方 法 ： インターネット調査法
調 査 期 間 ： 2013 年 7 月 30 日～8 月 9 日
回 答 学 校 数 ： 173 校

国公立	私　立	合　計
39	134	173

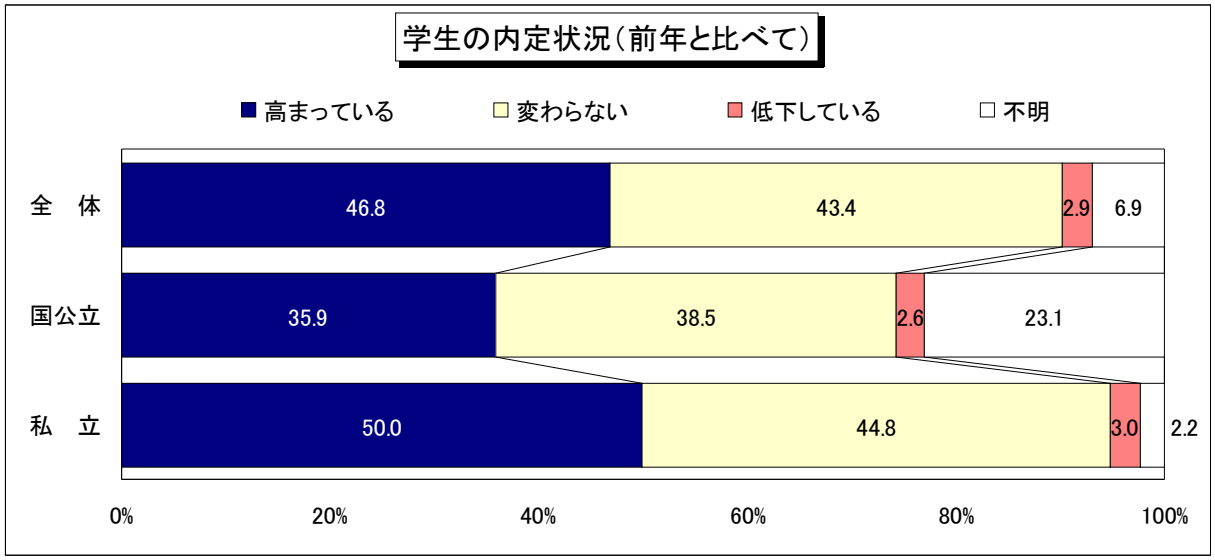
◆本資料に関するお問い合わせ先 ： 03-4316-5505／株式会社ディスコ キャリアリサーチ

株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

１．2014 年卒者の就職活動状況について

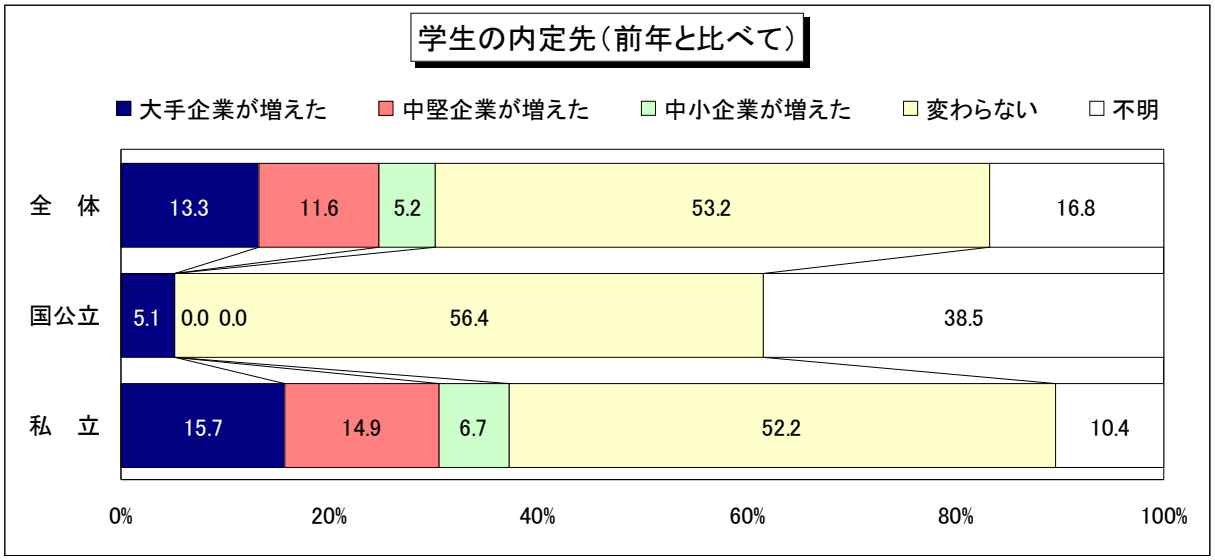
［１］内定状況（前年と比べて）

2014 年卒者（現大学 4 年生）の内定状況を尋ねた。前年と比較して「高まっている」という大学が全体の 46.8％と半数近くに及ぶのに対し、「低下している」は 2.9％とかなり少数だった。企業の採用意欲が高まっていることで、内定状況の改善を実感している大学が多いようだ。国公立大学では「不明」という回答が 23.1％にのぼり、状況を把握できていないケースが多いが、「不明」を除くと「高まっている」は 46％あまりで、私立大学との差はそう大きくはない。



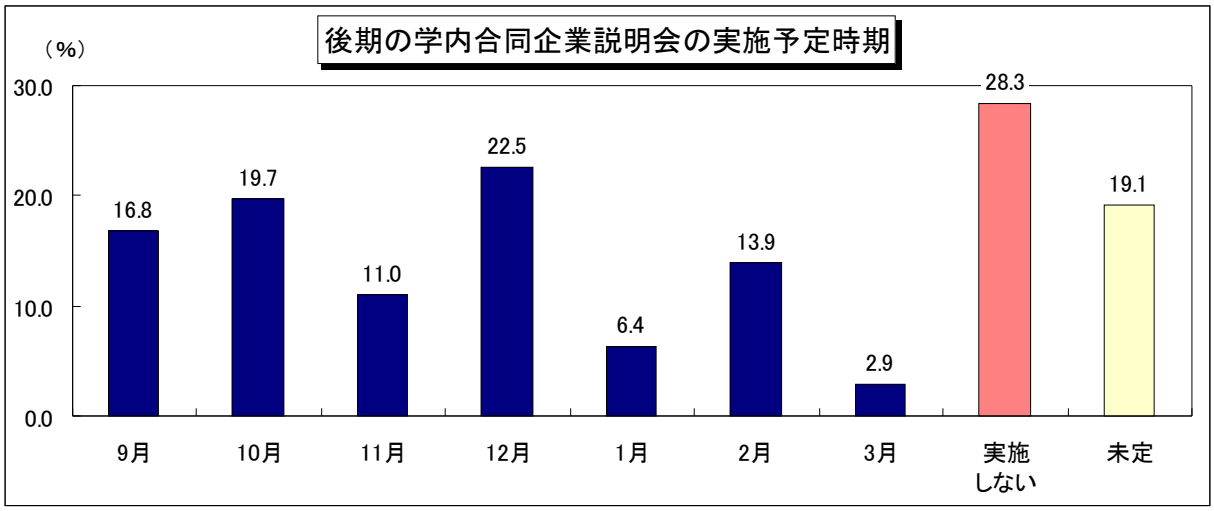
［２］内定先（前年と比べて）

学生の内定先について、企業の規模の変化という観点で尋ねた。「大手企業が増えた」という大学は、全体の 13.3％。「中堅企業が増えた」11.6％、「中小企業が増えた」5.2％と、大手企業の増加率がやや高いが、私立大学では中堅・中小企業の増加率が高い。ただ、半数以上の大学で内定先企業規模が「変わらない」と回答しており、企業規模を問わず採用人数が増加していることが分かる。



［３］後期の学内合同企業説明会の実施予定時期

後期（秋以降）の学内合同企業説明会の実施を予定している大学は、全体の 52.6%と半数あまり（「実施しない」「未定」を除いた数値）。実施が決まっている大学では、12 月の開催が最も多く、次いで 10 月、9 月の順で、4 月入社を前提に年内に実施する大学が多くあることが推測できる。「実施しない」という回答は国公立大学で多く、41.0%と 4 割を超える。



≪国公立･私立別≫ （%）

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施しない	未定
国公立	12.8	0.0	2.6	20.5	7.7	5.1	0.0	41.0	17.9
私　立	17.9	25.4	13.4	23.1	6.0	16.4	3.7	24.6	19.4

■2014 年卒者の就職活動状況や、課題について

○出足は順調で、大企業からも内定をもらう学生や中堅・中小でも第 1 希望という学生が 4 月、5 月には多かった。現在は一休み中といったところ。 ＜私立大学＞

○求人件数、内定者数ともに昨年と比べて増えており、好転した就職環境で活動していると感じる。ただ、重複内定者の辞退も増えているようだ。 ＜私立大学＞

○就職活動を積極的に行う学生と、そうではない学生の二極化が更に進んでいる印象があります。 ＜私立大学＞

○全体の学生の就職活動状況は、現在確認中である。当センターを利用している学生の状況では、重複内定を持つ学生と苦戦している学生の二極化がみられる。そのためか、例年より多めに中堅企業等での内定辞退者による追加募集などがみられる。 ＜私立大学＞

○2014 卒生に限ったことではないが、内定状況の把握が難しい。 ＜国立大学＞

○採用活動の開始時期が目まぐるしく変更したことに伴い、首都圏と地元（北海道）を同時に就職活動する学生のスケジュール調整が困難であったと聞いています。 ＜公立大学＞

○公務員希望者が増加しており、時期の遅い民間企業への転換や上手な併願に課題がある。地元就職希望者が増加している。 ＜国立大学＞

○全般的に薄日が差しているとは思うが、結果を出せない４年生も多く、個人面談を中心に一人一人に合ったきめ細かい就活支援が必要と考えている。 ＜私立大学＞

○内定が早く決まった学生数は多いが、一方で、出遅れたもしくは停滞している学生の数も多い。 ＜私立大学＞

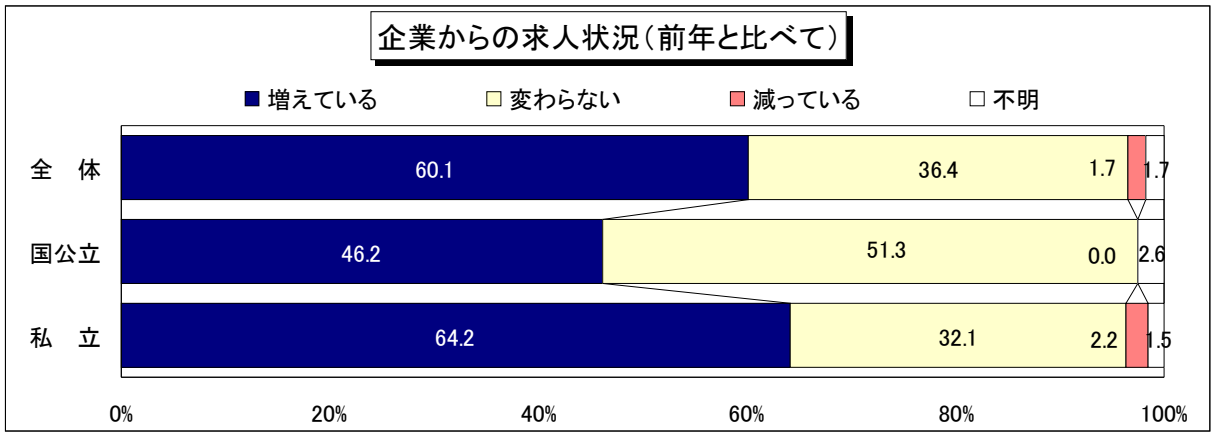
○未内定者への個別支援はもちろん継続し、合同企業説明会も毎月開催していく。 ＜私立大学＞

○現時点では内定報告が順調に届いているが、進路未決定者に対しての今後のサポートは欠かせない。今後も 2014 年卒者向けの求人があることを望む。 ＜私立大学＞

２．2014 年卒者の就職における企業との関係構築について

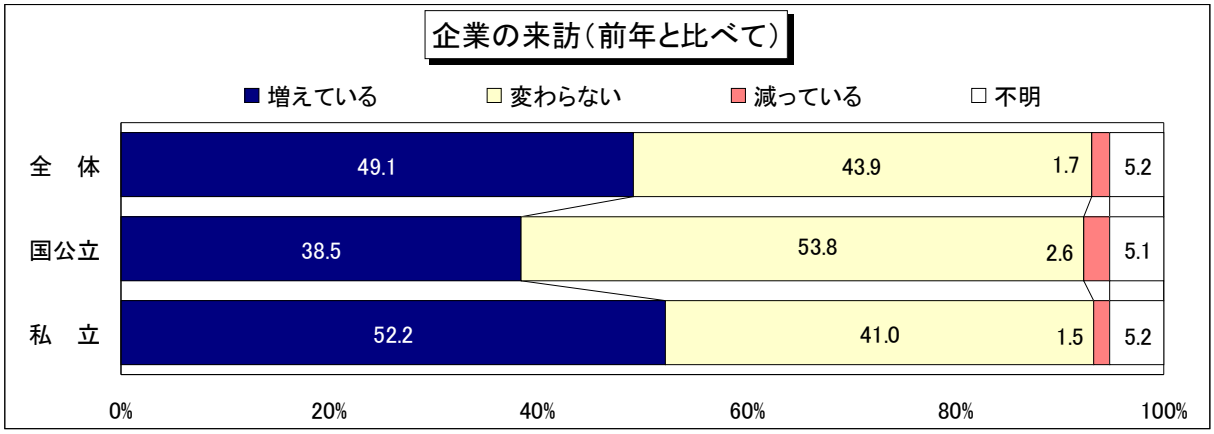
［１］企業からの求人状況（前年と比べて）

2014 年卒者（現大学 4 年生）の内定状況は多くの大学で改善が見られたが、企業からの求人が「増えている」という大学もかなり多い。全体の 60.1%が前年と比較して「増えている」と回答した。とりわけ私立大学での増加が目立つ。



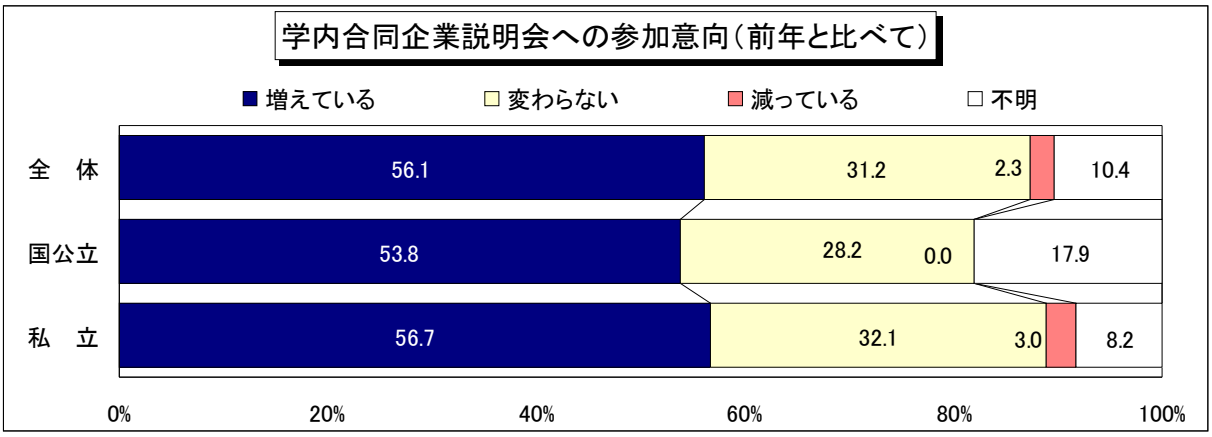
［２］企業の来訪（前年と比べて）

企業からの来訪も「増えている」という大学が多く、49.1%と半数に及んでいる。やはり私立大学において増加が目立っている。



［３］学内合同企業説明会への参加意向（前年と比べて）

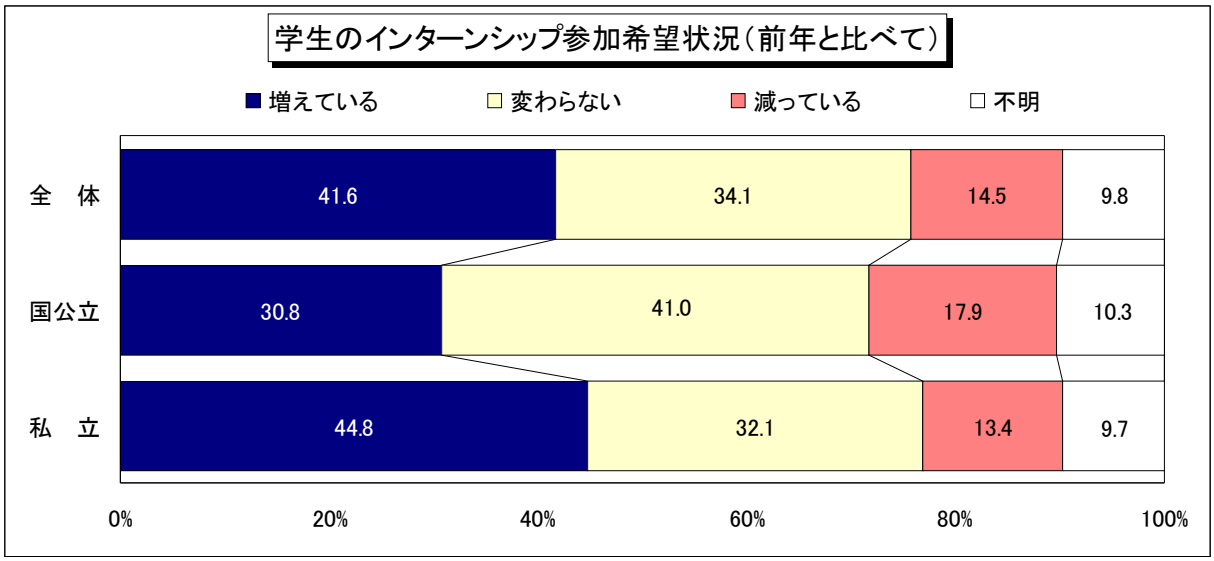
学内企業説明会への参加意向についても同様に「増えている」との回答が多く、56.1%と過半数に達する。2014 年卒者については全体的に企業の積極的なアプローチが目立つ結果となった。



３．2015 年卒者の就職に対する意識について

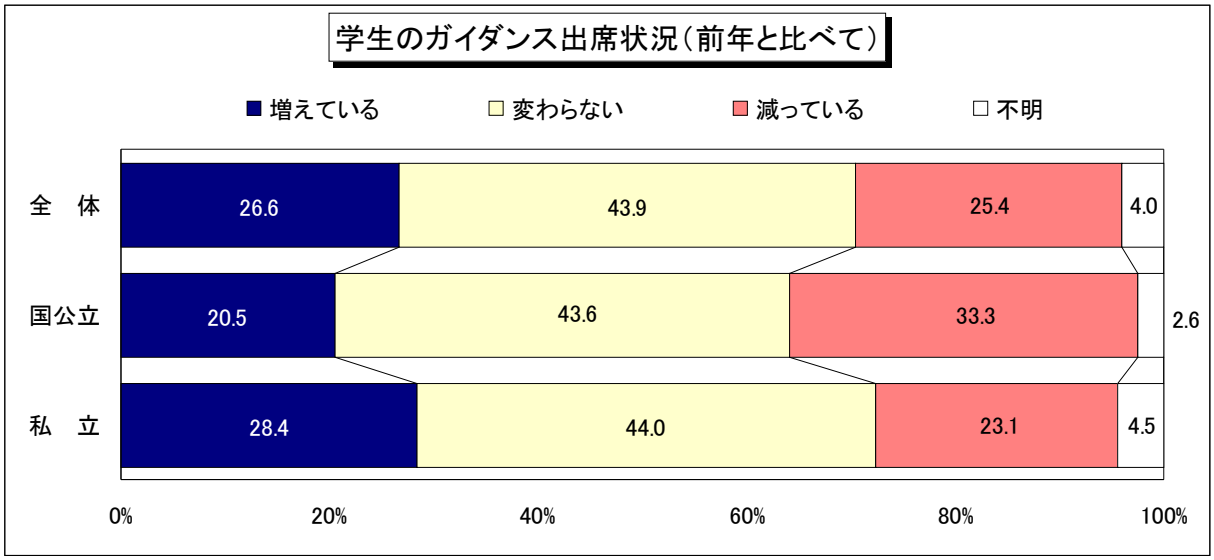
［１］学生のインターンシップ参加希望状況（前年と比べて）

2015 年卒者（現大学 3 年生）のインターンシップへの関心は高く、全体の 41.6%の大学がインターンシップへの参加を希望する学生が「増えている」と回答した。とりわけ私立大学で「増えている」と回答した割合が高い。



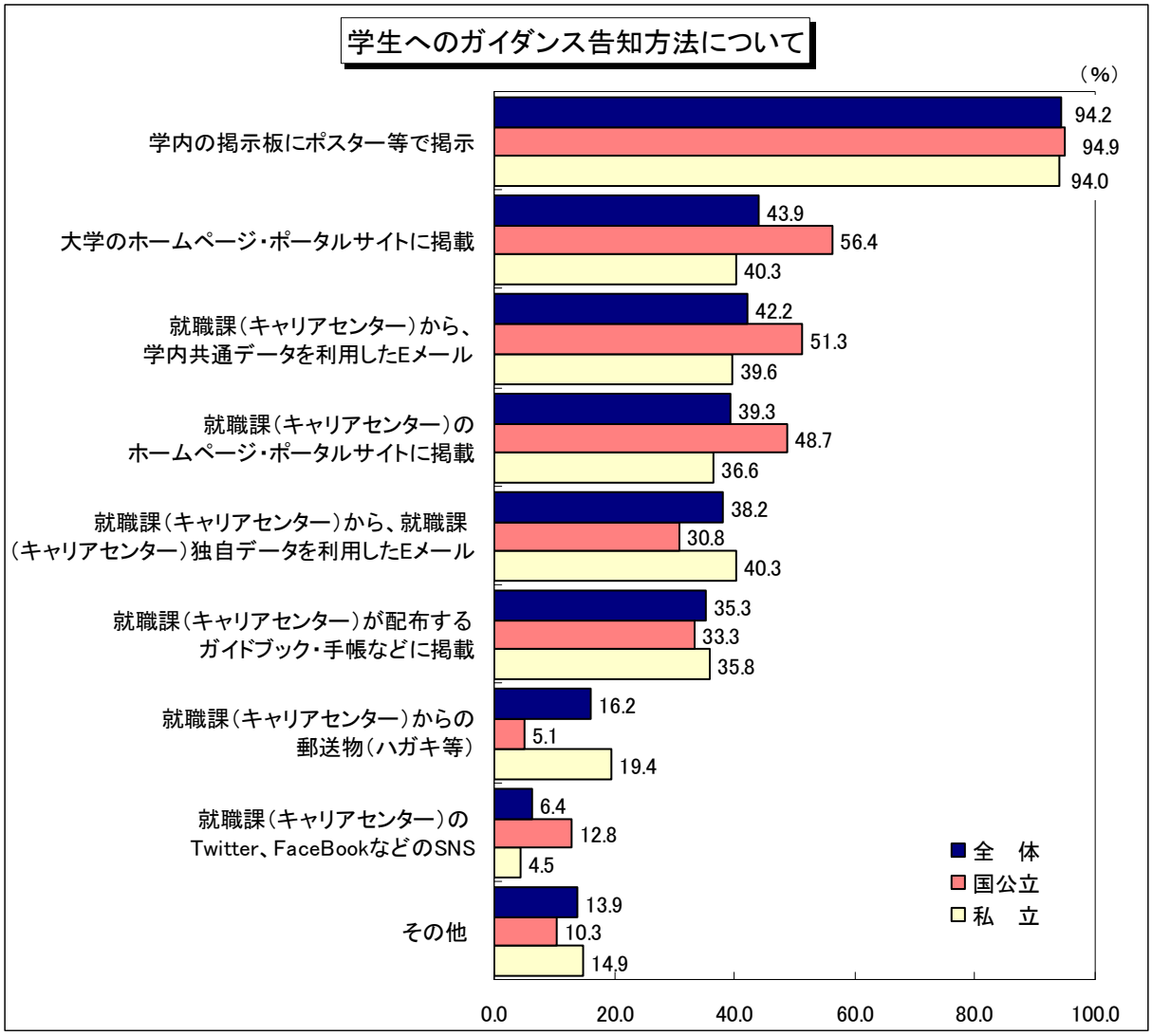
［２］就職ガイダンスへの出席状況（前年と比べて）

これまでの就職ガイダンスへの出席状況を尋ねた。前年と比較して「増えている」が 26.6%であるのに対し、「減っている」は 25.4%で、ほぼ同率となっている。国公立大学では「減っている」という大学が多く、逆に私立大学では「増えている」という大学が上回っている。いずれも 4 割強は「変わらない」と回答している。



［3］学生へのガイダンス告知方法

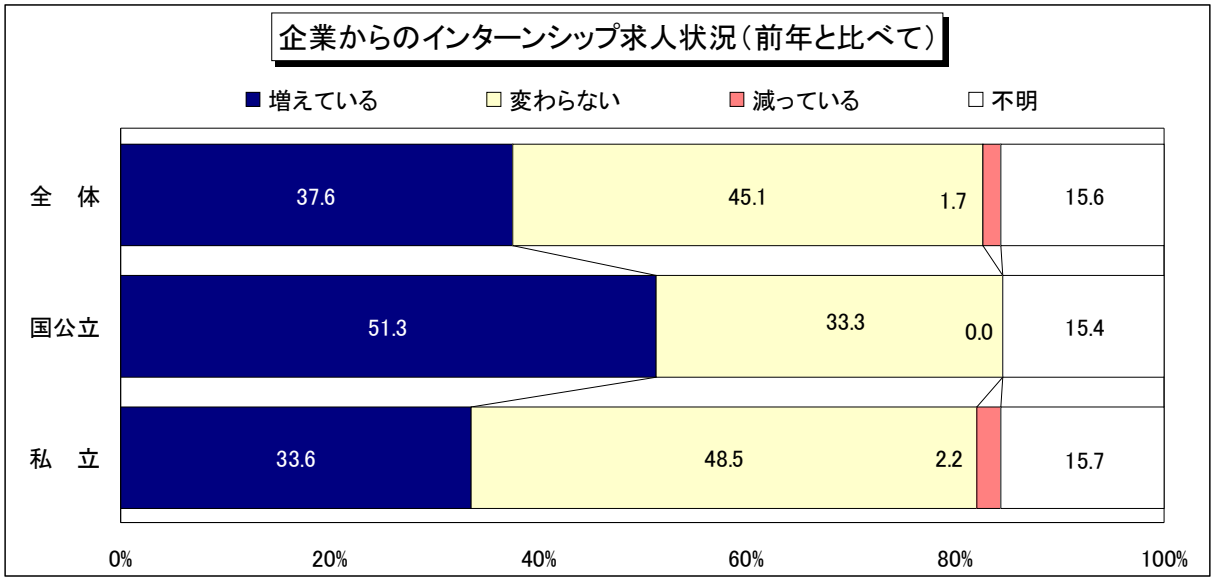
ガイダンス実施についてどのような方法で学生に告知しているのか、あてはまるものをすべて選んでもらった。最も多いのは「学内の掲示板にポスター等で掲示」で、全体の 94.2%にのぼる。国公立大学のほうが全般的に多くの方法で告知をしており、特に「大学のホームページ・ポータルサイトに掲載」「就職課（キャリアセンター）のホームページ・ポータルサイトに掲載」で差が大きく、サイトを積極的に活用している様子がうかがえる。一方、私立大学では「就職課（キャリアセンター）からの郵送物（ハガキ等）のポイントが高い。



４．2015 年卒者の就職における企業との関係構築について

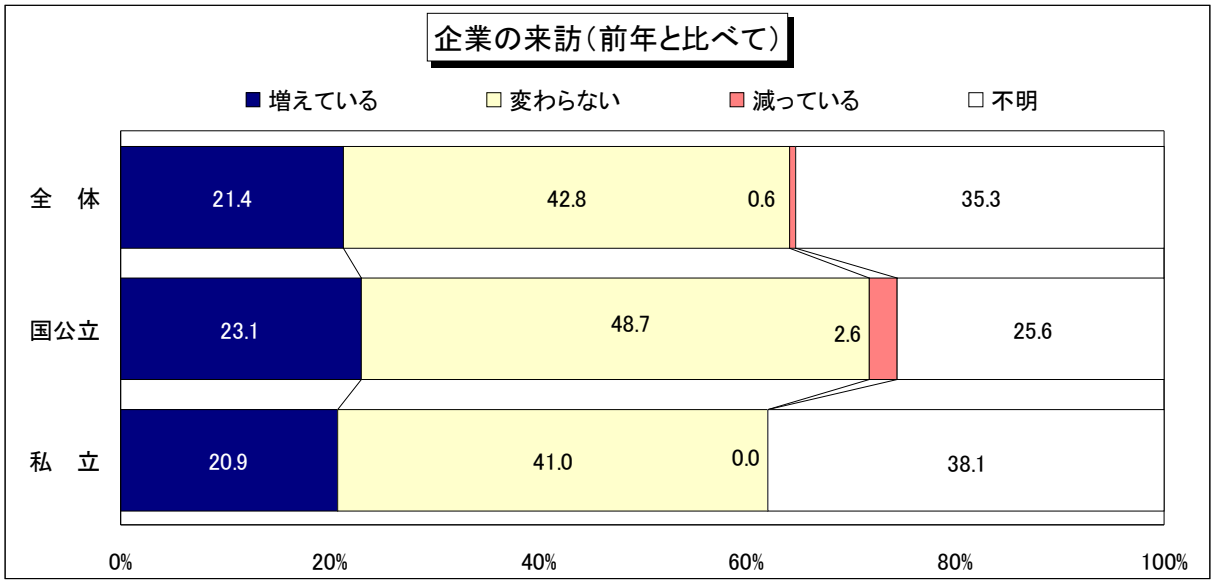
［１］企業からのインターンシップ求人状況（前年と比べて）

5 ページの［1］で見たように、学生のインターンシップ参加希望が増えていることと同様に、インターンシップの求人も増加傾向にある。「増えている」という大学が全体の 37.6%にのぼり、逆に「減っている」は 1.7%とかなり少ない。「増えている」という回答は、とくに国公立大学で多く、51.3%と過半数に達している。



［２］企業の来訪（前年と比べて）

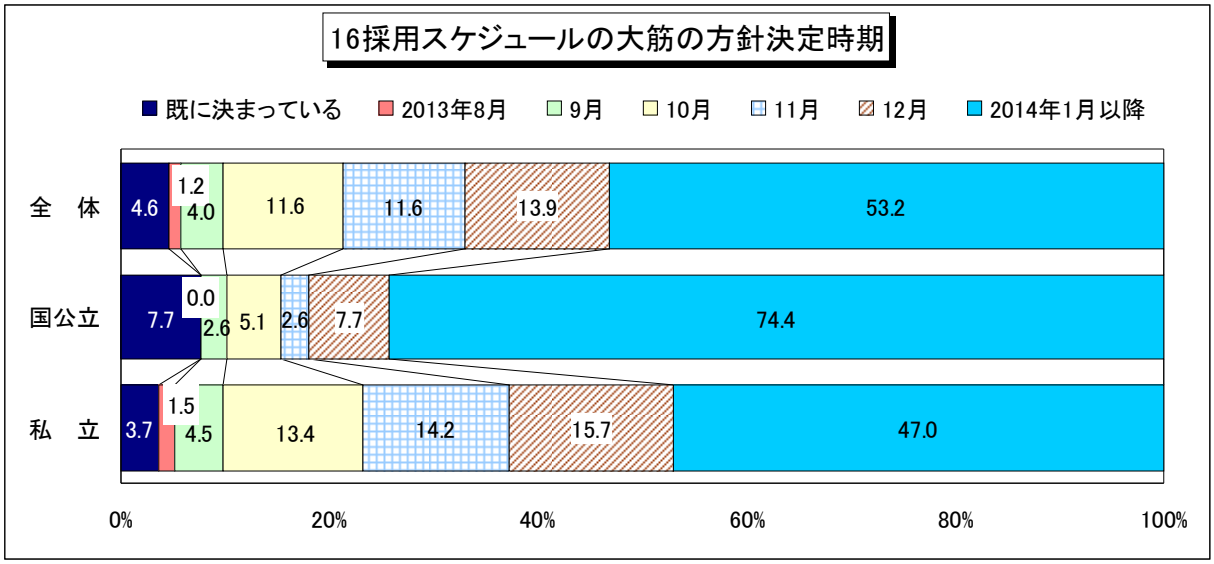
前年に比べ企業からの来訪が「増えている」という大学は 21.4%で、「減っている」0.6%を大きく上回る。但し全体の 35.3%が「不明」と回答しており、現状では前年との比較はできていないようだ。



５．2016 年卒採用のスケジュール後ろ倒しについて

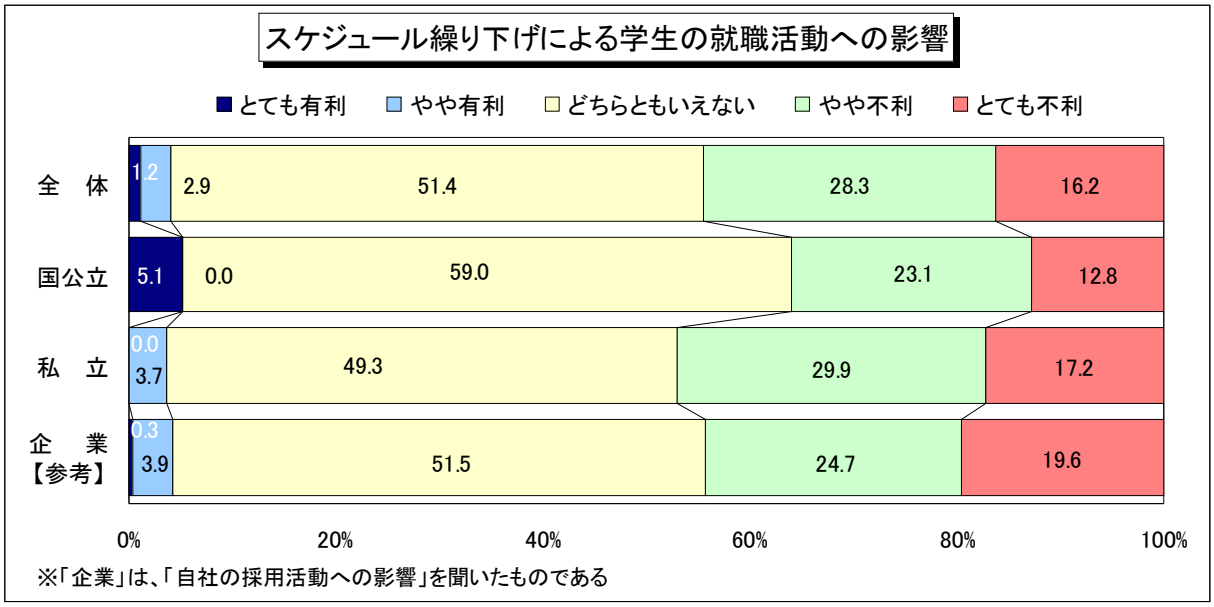
［１］学生向け支援の大筋の方針決定時期

2016 年卒者の採用から、解禁時期が現行の「3 年生の 12 月」から「3 年生の 3 月」へ、選考活動の開始時期が「4 年生の 4 月」から「4 年生の 8 月」へと繰り下げされるが、この新スケジュールに向けた学生支援の大筋の方針をすでに決めているという大学は全体の 4.6%にとどまっている。53.2%と過半数が「2014 年以降」に方針を決めると回答した。中でも国公立大学では 74.4%と高い割合を占めている。



［２］自校の学生の就職活動への影響

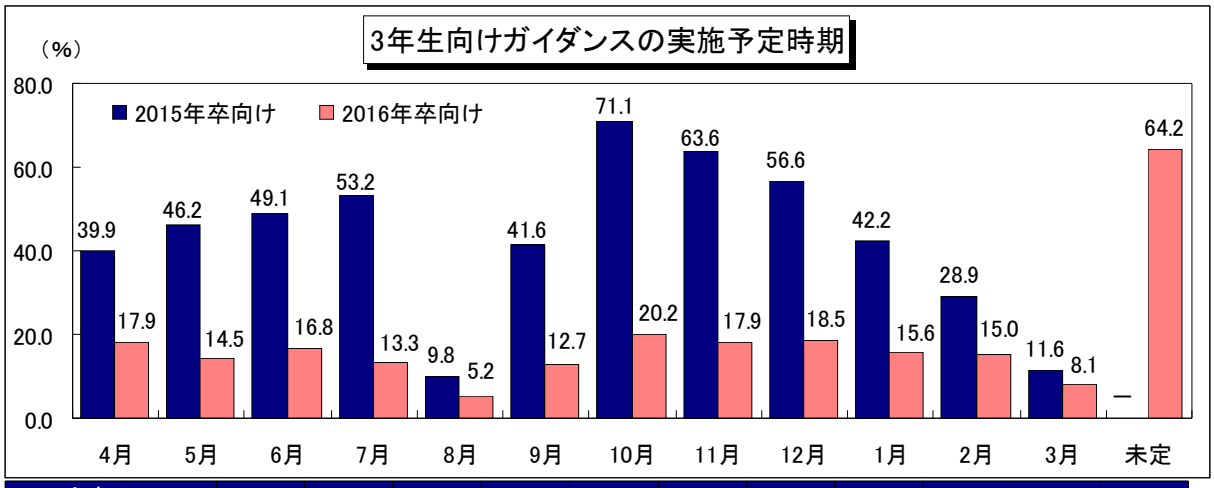
スケジュール繰り下げは、自校の学生にどう影響しそうかを尋ねた。「とても有利」1.2%、「やや有利」2.9%と、有利と見る大学はかなり少数で、不利との見方のほうが圧倒的に多い。「やや不利」28.3%、「とても不利」16.2%と、あわせて 44.5%にのぼる。興味深いのは、企業への調査（2013 年 5 月実施：有効回答 1,201 社）における「自社の採用活動への影響」と近い傾向となっていることだ。企業側も大学と同様に 4 割強が「不利になる」との見解を示し、危機感を募らせている。



株式会社ディスコ
キャリアリサーチ

［3］就職ガイダンスの実施時期

3 年生向けの就職ガイダンスの実施時期を、現行スケジュールである 2015 年卒者向けのものと、新スケジュールとなる 2016 年卒者向けのものとで比較してみた。現行スケジュールでは 10 月をピークに秋の実施が多いが、2016 年卒向けは「未定」が 64.2%あり、時期が分散化しているためいつがピーク時期になるかは予測が難しい。



2015年卒	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国公立	35.9	61.5	53.8	64.1	12.8	10.3	82.1	74.4	64.1	48.7	28.2	15.4
私　立	41.0	41.8	47.8	50.0	9.0	50.7	67.9	60.4	54.5	40.3	29.1	10.4

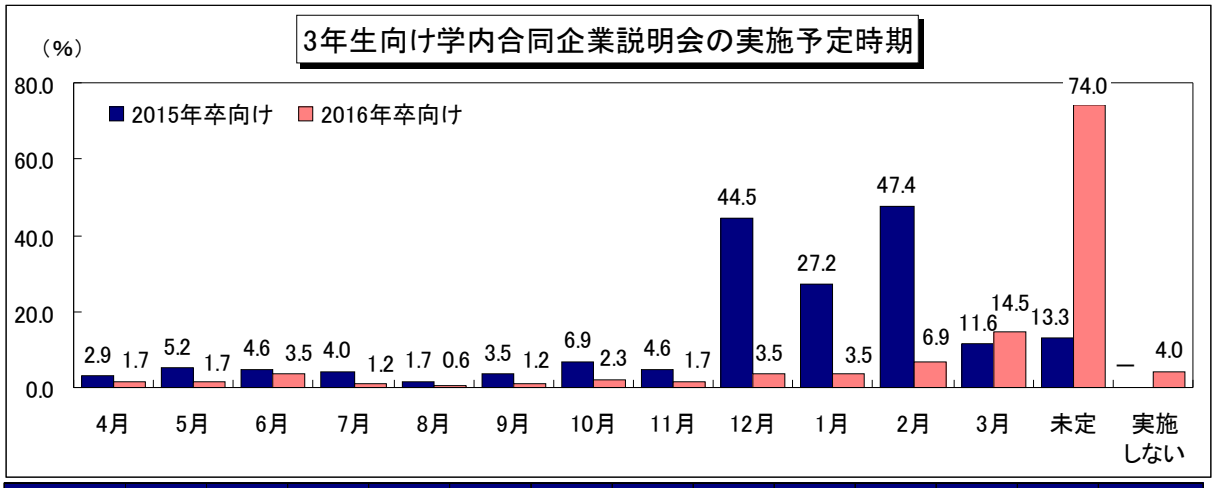
（%）

2016年卒	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	未定
国公立	15.4	28.2	20.5	28.2	12.8	10.3	28.2	25.6	25.6	23.1	20.5	12.8	61.5
私　立	18.7	10.4	15.7	9.0	3.0	13.4	17.9	15.7	16.4	13.4	13.4	6.7	64.9

（%）

［4］学内合同企業説明会の実施時期

学内合同企業説明会の実施時期についても比較した。現行スケジュールでは、採用広報解禁直後の 12 月と、後期試験終了後の 2 月の実施がメインとなっているが、新スケジュールでは解禁直後の 3 月がメインとなると予想される。今回の調査では「未定」が 74.0%と圧倒的多数であったが、未定を除くと最多は 3 月（14.5%）だった。



2015年卒	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施しない
国公立	2.6	5.1	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	2.6	69.2	46.2	17.9	5.1	10.3
私　立	3.0	5.2	5.2	5.2	2.2	4.5	8.2	5.2	37.3	21.6	56.0	13.4	14.2

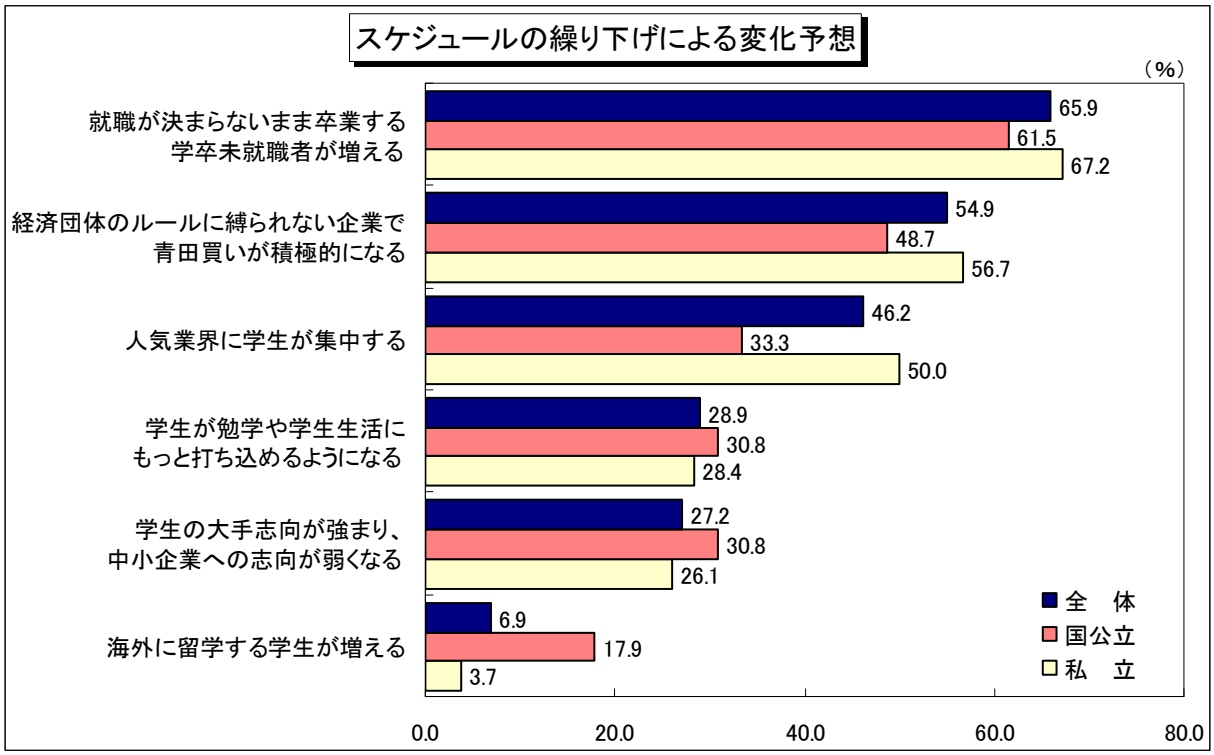
（%）

2016年卒	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	未定	実施しない
国公立	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	5.1	0.0	30.8	56.4	5.1
私　立	2.2	1.5	3.7	1.5	0.7	1.5	3.0	2.2	3.7	3.0	9.0	9.7	79.1	3.7

（%）

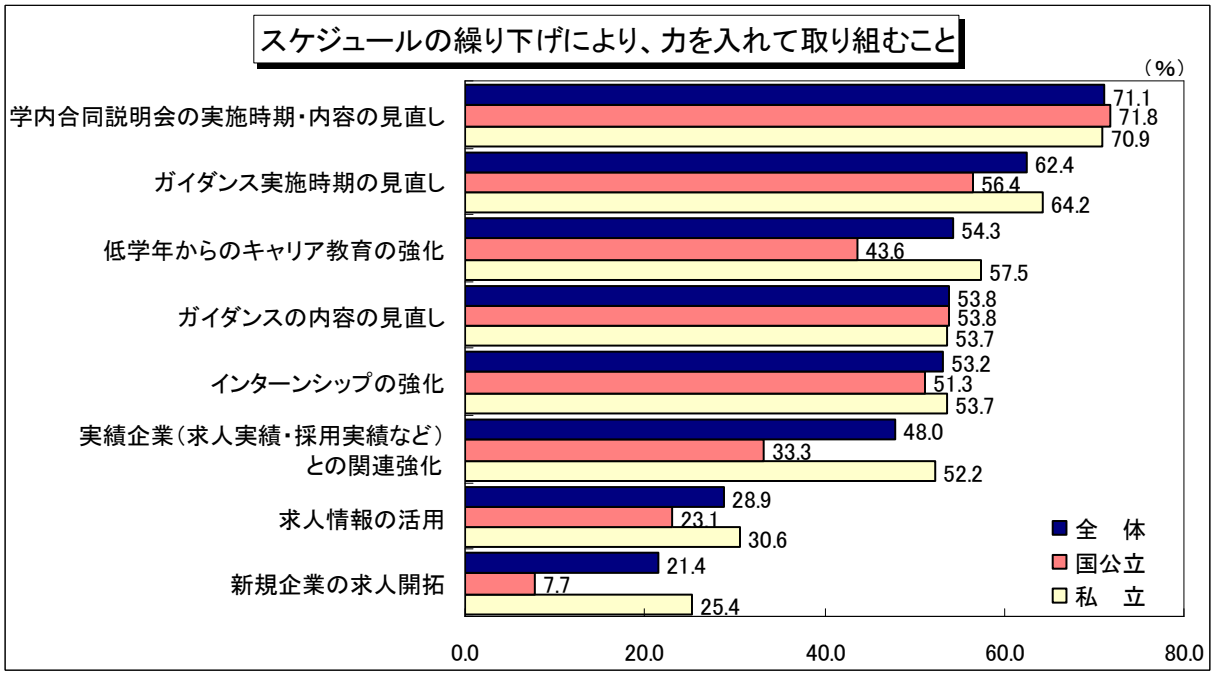
［5］時期の繰り下げによる変化予想

時期の繰り下げでどのような変化が予想されるかを尋ねた。最も多くが選んだのが「学卒未就業者が増える」の 65.9%。次いで「青田買いが積極的になる」54.9%。「海外に留学する学生が増える」において国公立と私立との差が大きく、繰り下げへの捉え方の違いが際立っている。



［6］時期の繰り下げにあたり取り組むこと

スケジュールが繰り下げられることに際し、力を入れて取り組むことを尋ねた。最も多いのは「学内合同企業説明会の実施時期・内容の見直し」で 71.1%と 7 割を超えている。8 つの選択肢のうち 5 項目で過半数となっており、大学として見直したり強化したりすべきことが多いのがわかる。全体的に私立大学でポイントが高く、より手厚い支援を予定していると言える。



■時期の繰り下げに対する課題や懸念など

○企業と接触を図る時間が遅くなるので、多くの企業が集中し、チャンスを失う学生がでてくるかもしれない。
＜私立大学＞

○企業説明会、セミナーの開催時期が学期始めになれば学生の授業出席に影響が生じ、履修計画や卒論作成計画にも影響が生じること。また、各種実習の時期と重複した場合、説明会などへの参加が困難になり、就職活動が円滑にできなくなる恐れがあること。＜国立大学＞

○志望先企業で、何をしたいかが分からないまま就職活動に入る学生が増える懸念があるので、インターンシップの事前・事後指導で企業業界研究を深める取組が必要と考える。ルールに沿わない企業が出てくることが想定され、学生指導に一貫性を欠くことも想定している。＜公立大学＞

○就活期間が短縮され、学生は複数の企業で同時進行する選考状況を抱える状況が増えることを懸念している。結果、複数の内定を得る学生の裏で、なかなか内定を得られない学生が増え，少しの出遅れで応募終了を迎えることになりはしないかと心配している。＜私立大学＞

○スケジュールが繰り下げになることにより企業の採用活動が短縮される。そのため、ますます大手企業では新卒採用の重点大学を作り、小規模大学の学生には不利になるのではないか。＜私立大学＞

○キャリア支援部門の力が問われる。＜私立大学＞

○12 月後ろ倒しになった時と同様に、在学生の意識の低下、行動の後ろ倒しが懸念される。8 月選考開始では、理系学生は卒業研究ができない。今のところメリットを感じられない。＜私立大学＞

○能動的な学生は問題ないが、行動が遅い学生や準備に時間がかかる学生は対応期間が短いため就職が決まらないまま卒業する学生が増える可能性がある。＜公立大学＞

○採用目的のインターンシップが増え、チャンスの多い都市部の学生と比べて、地方の学生が不利になるのではないか。＜国立大学＞

○より一発勝負の色合いが強まる。理系学生にとっては 4 年 4 月以降、研究活動が本格化するため、両立が難しい学生が多く出てくる可能性が高い。＜私立大学＞

○4 年次に国家試験対策に割ける時間が少なくなる。＜私立大学＞

○学生の応募スケジュール管理能力に注視すべきだろうと思っています。＜私立大学＞

○具体的なスケジュールがまだ決まらないので、どうするべきか検討中。＜国立大学＞

○従来以上に、進路志望をしっかり詰めて、計画的な活動を集中的に進めることが必要になると思う。これをしっかり学生に考えさせることが重要と考えているが、これは”後悔しない就職”のために本来必要なことであり、特にスケジュール後ろ倒しの影響とは受け止めていない。＜私立大学＞

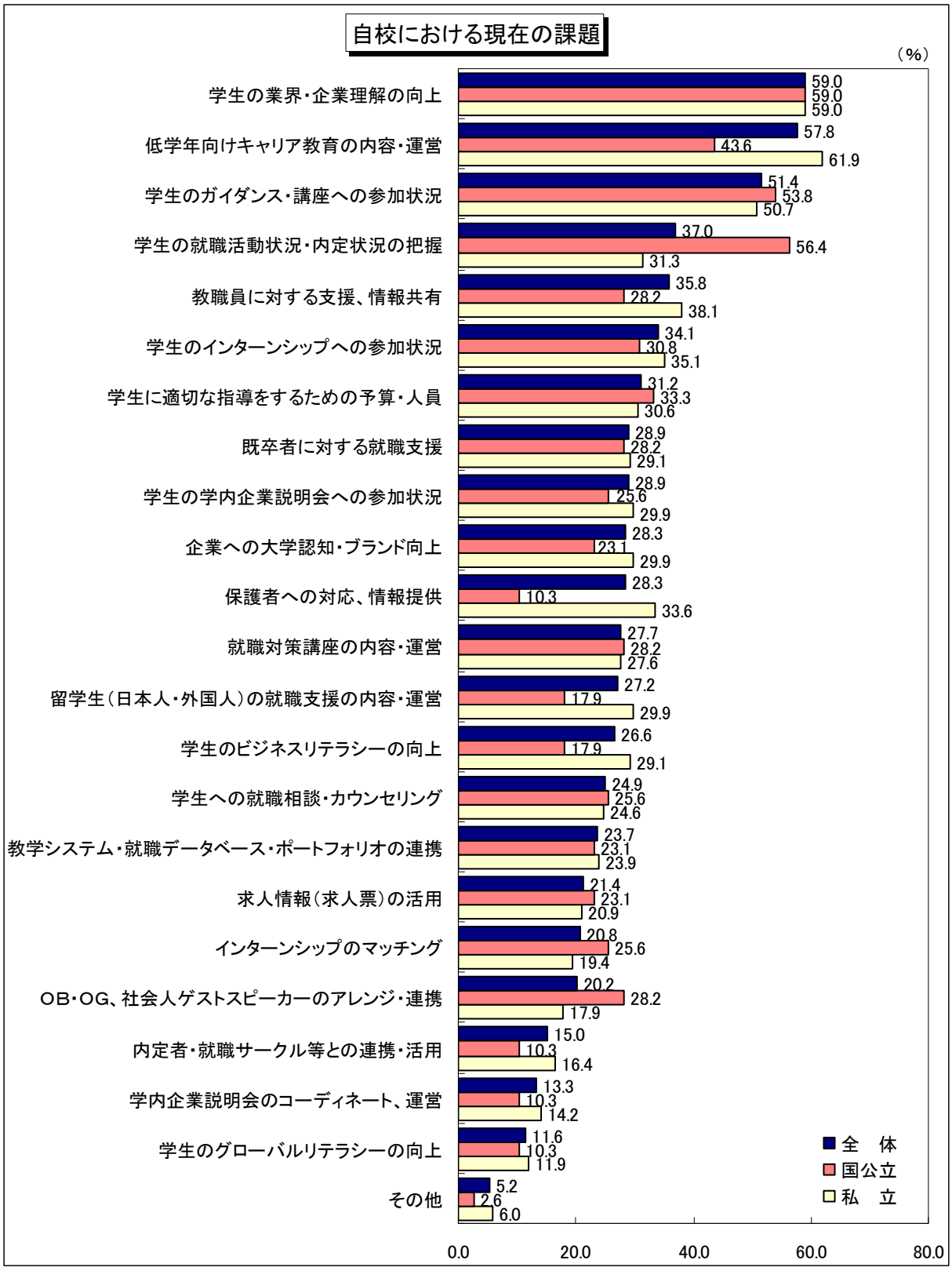
○開始時期が遅くなったとしても、学生が自己分析、業界・仕事研究などの面で遅れを取ることのないように、意識づけや対策を行う必要があると考える。また、企業の説明会や選考時期が重なることが予想されるため、学生がより良い取捨選択をすることができるよう、一層の支援が必要と考える。＜私立大学＞

○スケジュールを変えただけでは、いわゆる早期・長期問題は何も解決しないと思う。このスケジュールの後ろ倒しを機に就職活動、採用活動に関する中身にについて、企業・大学等により深い議論をすべきだと思う。(ex. 深い業界・企業研究等は必要か？ 深い業界・企業研究を行った学生が優秀なのか？ エントリーシートは必要か？ これらが長期化、早期化を増幅していないか？　など）＜私立大学＞

６．学生へのキャリア・就職指導全般について

［１］自校における現在の課題

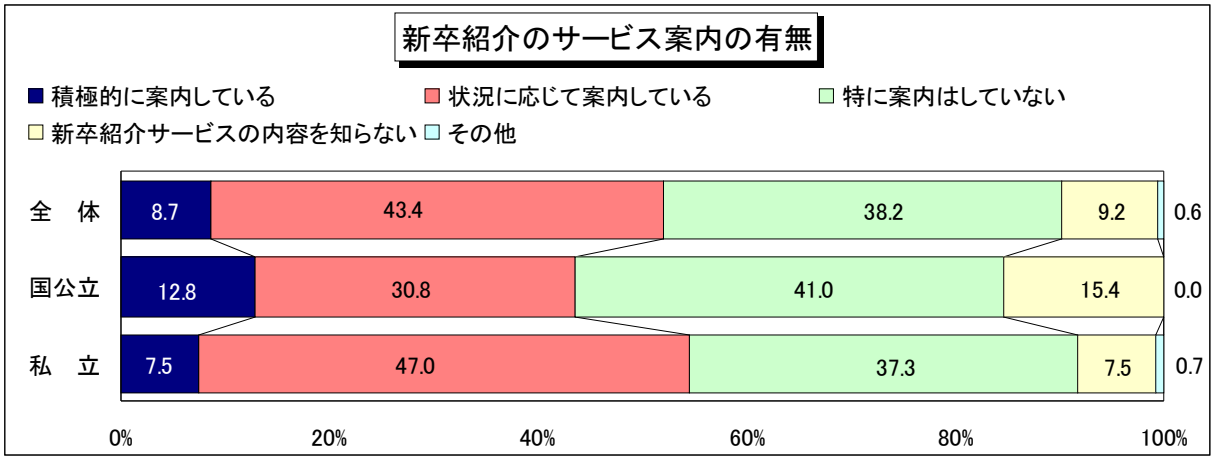
キャリア・就職支援における課題を尋ねた。国公立と私立とで差の大きい項目に着目すると、「低学年向けキャリア教育」「保護者対応」などで私立大学のポイントが高く、「学生の状況把握」において国公立大学のポイントが高い。「学生の理解向上」は両者ともポイントが高く共通の課題と言える。

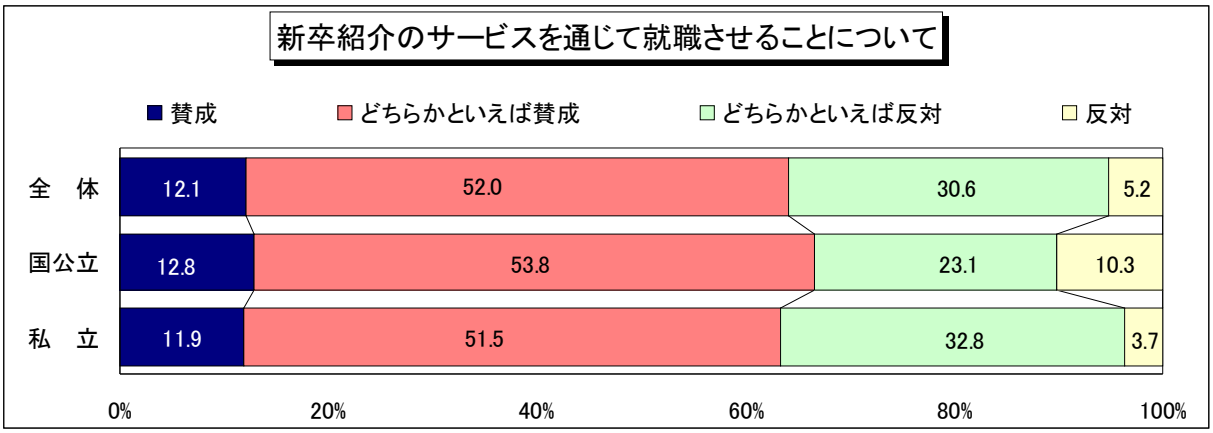


［2］新卒紹介サービスについて

新卒紹介のサービスを学生に「積極的に案内している」という大学は、全体の 8.7%にとどまり、「状況に応じて案内している」が 43.4%で最も多かった。「新卒紹介サービスの内容を知らない」は 9.2%と 1 割未満で、広く認知されていると言える。

新卒紹介サービスを通じて学生を就職させることについては、「賛成」12.1%、「どちらかといえば賛成」52.0%と、前向きに考えている大学のほうが多かった。新しいサービスを積極的に利用して、就職率を上げたいとの声も寄せられた。





■新卒紹介サービスについて

○当然、紹介のタイミングによるが（4 年生の夏以降か？）積極的に活用すべきであると思う。大学のキャリアセンターの一番の役割は学生に内定を取得させること（卒業後、4/1 から就業させること）だと思う。そのためにタイミングを見てあらゆる手段を活用すべきであると思う。 ＜私立大学＞

○チャンスのひとつとして、学生に勧めています。 ＜私立大学＞

○未内定で就活が長引き疲弊している学生への個別支援として有効と思われます。 ＜国立大学＞

○どこまで任せてよいのか、安心して任せてよいのか、どんな求人を紹介してくれて、どこまでフォローしてくれるのかが気になる。 ＜私立大学＞

○正社員として就労することが大前提であり、本人の適性と配属先をマッチングさせる機能には一定の評価はできる。 ＜私立大学＞

○就職を現実のものとするという点では効果はあると考えるが、就職の達成感を得るためには、自由応募による主体的な就職活動での内定獲得も必要と考える。 ＜公立大学＞